

The Behaviormetric Society of Japan

2015



日本行動計量学会

第43回大会 プログラム冊子

Program of the 43rd Annual Meeting of the Behaviormetric Society of Japan

2015年9月1日(火)～4日(金)



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

首都大学東京

日本行動計量学会

第 43 回大会プログラム

このたび 9 月 1 日から 9 月 4 日までの 4 日間、日本行動計量学会の第 43 回大会を、首都大学東京・南大沢キャンパスで開催させていただくことになりました。首都大学東京は、2005(平成 17)年 4 月に、東京都の 4 つの大学「東京都立大学」・「東京都立科学技術大学」・「東京都立保健科学大学」・「東京都立短期大学」を統合して設置された新しい大学です。南大沢キャンパスは、これまで東京都立大学のキャンパスでした。東京都立大学は昭和 24 年に設立され、平成 3 年に南大沢に移転し、そして再編・統合された後、「首都大学東京」に名前が変わりました。南大沢キャンパスは、都心から離れた八王子市にあります。新宿から京王相模原線で橋本方面へ向かい、南大沢駅で下車してください。改札口を出て、右手方向にまっすぐ進んで行くと、キャンパスの正門(南門)があります。都心に宿泊してのご参加も十分可能です。どうぞお気軽にご参加ください。

第 43 回大会では、新たな企画を用意しています。まず、特別講演「柳井レクチャー」です。これは、2013 年に逝去された故柳井晴夫先生の、行動計量学に関するご業績および学会へのご貢献を顕彰するために、2014 年 11 月の理事会で創設が決定されました。「柳井レクチャー」では、行動科学における計量的方法の理論と応用に関わる分野で大きく貢献された講演者を毎年 1 名選出し、大会時に特別講演を行っていただきます。第 43 回大会では高根芳雄先生(McGill University/University of Victoria)にご講演いただきます。

その他の新しい試みとして、ポスター発表とラウンドテーブル・ディスカッションも取り入れました。ポスター発表では、報告者と対面的なコミュニケーションをとることが可能であるため、通常の口頭報告形式では得られない成果を期待できます。また、ラウンドテーブル・ディスカッションは、研究の方向性に関するアイデアなどについて自由に議論をすることを目的としています。中規模な部屋で少人数で発表者から提示された内容についてさまざまな意見を出し合い、議論します。発表テーマにおける研究の話題提供でも、ご自身の研究テーマについての議論でも構いません。研究の推進を目指し、一般セッションよりも時間をかけた議論を希望される方は積極的にご参加下さい。

また懇親会は、若手の研究者たちにとって、他の研究者との交流・親睦を深めることができる貴重な機会を提供いたします。今回の懇親会は、首都大学東京・国際交流会館内のルヴェソンヴェール南大沢で開催します。その際、若い研究者たちが参加しやすいように、学生・院生の懇親会参加費は、1千円に設定しました。これは、懇親会での研究者間の交流を大切にしたいという、学会の意向と援助があったからこそ実現できたことです。理事の先生方に、あらためて御礼申し上げます。

本大会が皆様にとって有意義で生産的な経験となりますよう、大会実行委員一同、最善を尽くしております。多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

第 43 回大会実行委員長 中尾啓子
(首都大学東京・人文科学研究科)

大会の概要

1. 基本情報

- (1) 期 間: 2015 年 9 月 1 日(火)～2015 年 9 月 4 日(金)
1 日は、チュートリアルセミナー
- (2) 場 所: 首都大学東京南大沢キャンパス
- (3) URL: <http://bsj.wdc-jp.com/2015/>
- (4) 問い合わせ先:
大会ヘルプデスク(bsj-desk@bunken.co.jp)
大会実行委員会(bsj2015@tmu.ac.jp)
- (5) 大会の構成:
9 月 1 日(火) チュートリアルセミナー(受付開始 12:30)
テーマ A: 13:00～16:30、テーマ B: 13:00～17:30
9 月 2 日(水) 10:00～17:20(受付開始 9:30) 特別セッション、一般セッション(口頭発表)、
ラウンドテーブル・ディスカッション
9 月 3 日(木) 9:30～10:50(受付開始 9:00)一般セッション(口頭発表)
11:00～12:40 一般セッション(ポスターセッション)
13:40～14:40 特別講演「柳井レクチャー」
14:50～16:50 第 43 回大会公開シンポジウム
17:00～18:00 総会
18:20～20:20 懇親会
9 月 4 日(金) 9:30～11:30(受付開始 9:00) 第 43 回大会特別講演
15:00～17:00 特別セッション、一般セッション(口頭発表)

2. 大会までのスケジュール

2015 年 2 月 3 日(火)	Web サイト公開
2015 年 3 月 2 日(月)	特別セッションの企画募集開始
2015 年 4 月 1 日(水)	一般研究発表申込開始 抄録集用原稿受付開始 チュートリアルセミナー参加申込開始 大会参加事前申込開始
2015 年 4 月 30 日(木)	特別セッションの企画募集締切(5 月 15 日(金)まで延期)
2015 年 6 月 1 日(月)	一般研究発表申込締切
2015 年 6 月 8 日(月)	抄録原稿提出締切
2015 年 8 月 5 日(水)	プログラム冊子発送予定
2015 年 8 月 12 日(水)	大会参加事前申込締切
2015 年 9 月 1 日(火)～4 日(金)	第 43 回大会

3. 参加費等

(1) 参加費

	正会員	学生	賛助会員	非会員
早期振込	5,000 円	3,000 円	5,000 円	7,000 円
当日支払	6,000 円	4,000 円	6,000 円	10,000 円

- 参加費には抄録集 1 冊を含みます。
- 正会員には名誉会員・シニア会員を含みます。
- 学生の参加費には準会員・非会員の区別はありません。
- 賛助会員は 3 名様まで無料です。事前に参加券を 3 枚お送りしますので、この券を持参された方が対象です。4 人目以降は、上記金額です。なお、事前参加申込より無料の登録を行った方も、当日必ず参加券をご持参ください。
- 抄録集は 1 冊 3,000 円で頒布します。
- 早期振込は Web による参加申込・参加費振込とも 8 月 12 日(水)までに行われた方が対象です。それ以後は会場で「当日支払」の会費をお支払いください。

(2) 懇親会費

種別	一般	学生
早期振込	4,000 円	1,000 円
当日支払	5,000 円	1,000 円

- 定員に達した場合は受付を終了することがあります。
- 早期振込は Web による参加申込・参加費振込とも 8 月 12 日(水)までに行われた方が対象です。それ以後は会場で「当日支払」の会費をお支払いください。

4. 振込先

	ゆうちょ銀行 振替口座
記号番号	00190-4-386225
加入者名	日本行動計量学会大会
口座名称(カナ)	ニホンコウドウケイリョウガッカイタイカイ

他の金融機関からゆうちょ銀行へお振り込みされる場合は、下記情報をご利用ください。

銀行名	ゆうちょ銀行
店名	〇一九店(ゼロイチキューウ店)
店番	019
預金種目	当座
口座番号	0386225

※恐れ入りますが、振り込み手数料はご負担くださいますようお願い申し上げます。

5. 宿泊について

大会実行委員会では、特に宿泊先の用意はいたしません。首都大学東京南大沢キャンパスの最寄り駅・京王相模原線南大沢駅近辺にはホテルがありません。京王相模原線終点橋本駅または京王多摩センター駅(ともに南大沢から2駅)近辺のホテルが便利です。また、京王新宿駅から南大沢駅までは、特急で30分ほど、京王渋谷駅から南大沢駅までは約40分(明大前乗換)の所要時間ですので、都内のホテルのご利用も可能かと思えます。

6. 昼食について

大会期間中の昼食時間帯には、キャンパス内の生協購買書籍部、生協食堂、ルヴェンヴェール南大沢(国際交流会館館内)が営業しております(場所の詳細については「首都大学東京南大沢キャンパス(キャンパスマップ)」のページにてご確認ください)。また南大沢駅に向かう南門前の通りには、キャンパスから徒歩3分程度に三井アウトレットパークのレストラン街、徒歩5分程度の駅前エリアにはコンビニエンスストアや各種飲食店がございます。ご持参いただいた昼食を召し上がる際には、休憩室をご利用ください。

無線 LAN

大会期間中、キャンパス内では無線 LAN の使用が可能です。SSID やパスワードなどの情報は、抄録集に記載いたします。

一般セッション(口頭発表)・特別セッション発表者の皆様へ

1. 一般セッション(口頭発表)における発表時間は、質疑応答を含めて20分です。時間厳守をお願いいたします。特別セッションは、1セッション2時間となりますが、各発表の時間は、オーガナイザーの裁量によりセッションごとに異なりますので、事前にオーガナイザーにご確認ください。
2. 発表には、液晶プロジェクタが利用できます。コネクタはVGA方式に対応しております。PCはご自身のものをご持参ください。また、セッション開始前に接続テストを済ませてください。何か不都合がございましたら、大会実行委員会にご相談ください。
3. 発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。補足資料を利用する場合は、50部程度を目安として配布プリントをご持参ください。

一般セッション(ポスターセッション)発表者の皆様へ

一般セッション(ポスターセッション)は、2015年9月3日(木)11:00~12:40に7号館1階101スタジオを会場として実施します。

1. ポスター発表は、割り当てられたセッション中(100分間)ポスターを掲示し、かつ、大会プログラムで指定された在席責任時間(演題番号がCAP-1で始まる方は前半の1時間、CAP-2で始まる方は後半の1時間、演題番号についてはプログラムおよび大会抄録集中に記載されておりますのでご確認ください)の間、質疑に応じることにより正式発表とみなされます。ただし、在席責任時間以外の時間にも在席することが望まれます。なお、それぞれの在席責任時間中に、発表者の在不在の確認をいたします。
2. 発表者はセッション開始10分前までに、ポスターセッション会場の受付へお越しください。発表者到着確認を行います。
3. 発表者はセッション開始5分前までに発表会場の指定された番号のパネルにポスターを貼ってください。各ポスターの掲示位置は演題番号のCAP以降の番号で指定されています。
4. ポスター掲示板の大きさは、幅120cm×高さ170cm(A0サイズ(縦型、横84.1cm×縦118.9cm)が掲示可能です)であるため、これをポスターの大きさの上限とします。
5. ポスターの上部には、発表題目と発表者全員の氏名と所属をご記入ください。連名の場合には主発表者に○印をお付けください。
6. 文字の大きさは特に指定しませんが、ポスターから離れた位置(約2m)でも読める大きさを目安にしてください。
7. ポスター発表者が欠席した場合には、「発表取消」となります。連名発表の場合においては、大会実行委員長の承認を得た場合に限り連名発表者の1人が代行可能とします。ポスター発表者の欠席、交替などについては、会期前は大会実行委員会に、会期中はポスターセッション会場受付にご連絡ください。
8. 発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。補足資料を配布される方は、50部程度を目安として配布プリントをご持参ください。また、配布も各自でお願いいたします。
9. 掲示したポスターは、18:20からの懇親会開始までに片付けてください。それ以降も掲示したままのポスターは大会実行委員会に取り外し、処分いたしますのでご注意ください。

ラウンドテーブル・ディスカッションに参加される皆様へ

本大会では、大会実行委員会企画としてラウンドテーブル・ディスカッションを行います。ラウンドテーブル・ディスカッションは、円卓を囲み話題提供者(発表者・オーガナイザー)のテーマにより自由に意見を交換しながら議論する場です。テーブルを囲む参加者は自由に発言できます。しかし議論した結果を特定の結論に至ることは課題としません。

ラウンドテーブル・ディスカッションは研究成果を報告するだけではなく、現在抱えている研究上の疑問、現場での課題、課題についての解決策などを持ち寄り、参加者全員で当該のテーマについて議論します。また、これまでの現場での体験や研究成果をもとに新たな仮説を提案し、それを元に議論することも可能です。

一つのセッションの時間は 60 分となります(セッションを 2 つ組み合わせた 120 分のセッションもテーマによりあります)。一般セッションとは異なり、十分な時間をかけて話題提供者と参加者が自由に意見交換を行い、テーブルを囲む全員が同じ立場と目線で話し合います。また、議論した内容を踏まえた上で、話題提供者だけでなく、フロアにいらっしゃる方々の研究についても、改めて深く考えていただき、今後のご自身の研究をどのように発展させたいかを考え、その内容をグループで共有し、さらに意見や感想をやりとりしていただくような研究者の交流の場としてもご利用いただければと思います。

さらに、テーブルを囲む参加者以外で、周囲のオブザーバー(テーブルの周囲の聴衆)も議論に参加することも可能です。話題提供者と参加者が意見を交わしている状況に、オブザーバーも発言していただいてもかまいません。

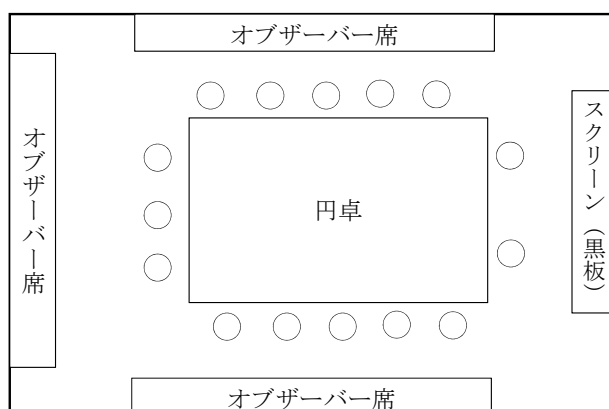
なお、本大会では会場設営の都合上、円卓ではなくテーブルを口の字(四角)に配置します。

1. ラウンドテーブル・ディスカッションは話題提供者(発表者・オーガナイザー)も参加者もともに着席して開始します。各円卓(口の字型)に椅子を 15 脚程度準備します。参加希望者が多い場合は、周りのオブザーバー用の席をご利用ください。
2. まずは話題提供者が、研究の概要と論点についての説明を行ってください。
4. 話題提供者は、参加者と同じ立場にたって、テーマについて議論できるような発表用の資料をご準備ください。発表には、液晶プロジェクタが利用できます。コネクタは VGA 方式に対応しております。ただし、PC はご自身のものをご持参ください。また、セッション開始前に接続テストを済ませてください。何か不都合がございましたら、大会実行委員会にご相談ください。なお、発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。補足資料を利用する場合は、テーブルによって参加人数は異なりますが 30 部程度を目安として配布プリントをご持参ください。
3. その後は話題提供者の発表の流れに沿いながら、討論者などからのコメントを交え、参加者全員で意見交換を進めてください。意見が活発に出始め、論点が具体化したらその流れに任せてください。
4. 司会者は第一の参加者として発言者を助け、ラウンドテーブルを囲む全員が交流できるよう、話題提供者と討議の開始と進行を支えてください。参加者に対し発言を促すようなことも状況に

応じて行ってください。ただし、研究報告の主体は話題提供者であり、討議の主体は話題提供者と参加者です。司会者が進行を気に使わずとも、両者の発言が順調に進み始めたら、司会者は、討議については自然の成り行きに任せてください。なお、司会者は、全体の意見をまとめたり、結論づけたりすることに責任を負う必要はありません。一参加者として、意見の交流を楽しんでください。また、討論者や他の参加者と協力し、時間どおりの開始と終了を目指して、時間の管理と進行をお願いします。

5. 今回のラウンドテーブル・ディスカッションでは、討議に加わらず、周囲で見学をするだけでも構いません。しかし、一言でもご自身の意見を述べていただくだけでも研究の交流が生まれますので、可能な限りテーブルに着席し、討議に参加してください。一人でも多くの方にテーブルに着席して議論に参加していただければ、意見交換も盛り上がると思います。積極的なご参加をお願いいたします。

ラウンドテーブル・ディスカッション会場イメージ



懇親会

首都大学東京南大沢キャンパス国際交流会館内のルヴェソンヴェール南大沢で、2015年9月3日(木)18:20～20:20に懇親会を行います。参加費は一般が早期振込4,000円、当日支払5,000円、学生は早期振込・当日支払ともに1,000円です。早期振込の締切は8月12日(水)です。大会Webサイトで参加申込の上、お振り込みください。

日時:2015年9月3日(木)18:20～20:20

場所:ルヴェソンヴェール南大沢(首都大学東京南大沢キャンパス国際交流会館内)

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京国際交流会館内

TEL:042-677-3301 FAX:042-677-3304

URL:http://www.leversonverre-tokyo.com/restaurant_minamiosawa/

チュートリアルセミナー

第 43 回大会では以下のようにチュートリアルセミナーを実施します。チュートリアルセミナーのテーマ A とテーマ B のどちらに参加されるかは大会 Web サイトの参加申込みページ(<http://bsj.wdc-jp.com/2015/application/registration.html>)にて参加申込み後、参加受付メールに記載されている参加 ID 番号 (PT から始まる番号)を確認の上、参加希望コース登録サイト <http://goo.gl/forms/FcuQj4xZox> よりご登録ください。事前にご登録いただけない場合にはご希望に添えない場合がございますので、ご注意下さい。

テーマ A: ロボット介護機器評価・改善を実現する「人」の能力最大化支援—現場状況の把握・行動の意味分析・行動変容を目指して—

講師: 西村 拓一(産業技術総合研究所)

会場: 首都大学東京南大沢キャンパス 1 号館 1 階 120 教室

日時: 2015 年 9 月 1 日(火) 13:00~16:30(12:30 受付開始、途中休憩をはさむ)

概要:

介護サービスの品質向上を目指してロボット介護機器が開発されていますが、現場での行動やその意味を詳細に把握しにくく、適切な機器をデザインすることは困難です。そこで、このような、「人」がリアルタイムに連携して価値を生み出すサービスの現場を支援するモノやコトを「人」のセンシング能力とデザイン能力を最大化して現場状況を把握し、改善することを支援する方法論と技術を研究しています。今回は1年半ほど運用している申し送りシステムのデータ分析とそのデータを現場従業員が主体的に把握し業務プロセスを変更し、業務改善した事例を挙げ将来性を探ります。

テーマ B: 著者が解説する「R による心理学研究法入門」

企画・司会: 山田 剛史(岡山大学)

講師: 宇佐美 慧(筑波大学)、尾崎 幸謙(筑波大学)、鈴木 雅之(昭和女子大学)、

高橋 雄介(京都大学)、安永 和央(東京大学・日本学術振興会)

会場: 首都大学東京南大沢キャンパス 1 号館 3 階 330 教室(パソコン室)

日時: 2015 年 9 月 1 日(火) 13:00~17:30(12:30 受付開始)

定員: 60 名

概要:

「R による心理学研究法入門」(北大路書房)は、「心理学研究モデル論文集」「具体例に即した心理学研究入門書」「統計ソフト R の分析事例編」という 3 つの側面を持つテキストとして編集されたものです。今回のチュートリアルセミナーでは、この本の著者自らが、本で取り上げた心理学研究・R での分析について解説と演習を行います。本の後半部分の難易度が高めの章を中心に解説を行います。取り上げた心理学研究の概要やその後の研究の発展、著者だから語れる裏話も紹介します。R の分析については、本で取り上げた分析の解説と、本では取り上げなかったプラスアルファの分析についても紹介し、パソコンを用いたハンズオンの演習を行います。チュートリアルセミナー

に参加される方は、事前に「山田剛史(編著)(2015).『Rによる心理学研究法入門』北大路書房」をご購入の上、参加ください。あるいは、チュートリアルセミナー当日、受付にてテキストを販売します。当日購入される場合は、定価の2割引(2,332円)での販売となりますので、お釣りのないよう料金を持参ください。また、本セミナーはRについて全くの初学者は受講対象と考えていません。Rを一度も使ったことがないという方は、「村井潤一郎(2013).『はじめてのR—ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』北大路書房」などで事前にRの基本操作について自習しておいてください。

タイムスケジュール:

- 13:00-13:05 セミナーの概要紹介 山田 剛史(岡山大学)
- 13:05-13:45 「教育測定に関する実証研究」(テキスト第5章)
安永 和央(東京大学・日本学術振興会)
- 13:45-14:25 「心理尺度および心理検査の作成と信頼性・妥当性」(テキスト第6章)
宇佐美 慧(筑波大学)
- 14:40-15:20 「心理学における調査研究(1)」(テキスト第7章)
鈴木 雅之(昭和女子大学)
- 15:20-16:00 「心理学における調査研究(2)」(テキスト第8章)
高橋 雄介(京都大学)
- 16:15-16:55 「縦断データ解析による因果関係の探索」(テキスト第9章)
尾崎 幸謙(筑波大学)
- 16:55-17:30 質疑と演習

参加費:

	正会員	学生	賛助会員	非会員
早期振込	3,000円	2,000円	3,000円	4,000円
当日支払	4,000円	3,000円	4,000円	5,000円

※早期振込はWebによる参加申込・参加費振込とも8月12日(水)までに行われた方が対象です。それ以後は会場で「当日支払」の会費をお支払いください。

特別講演「柳井レクチャー」

第43回大会では以下のように2015年9月3日(木)13:40~14:40に特別講演「柳井レクチャー」を実施します。柳井レクチャーは、2013年に逝去された故柳井晴夫先生のご業績および学会へのご貢献を顕彰するため2014年11月10日開催の理事会にて創設が決定されました。柳井レクチャーでは、故柳井晴夫先生のご業績に鑑み行動科学における計量的方法の理論と応用について、講演者を毎年1名選出し、大会時に1時間程度の特別講演を行っていただきます。本年度のご講演者は高根芳雄先生(McGill University/University of Victoria)です。

日時:2015年9月3日(木)13:40~14:40

会場:首都大学東京南大沢キャンパス1号館2階230教室

タイトル:Analysis of brain connectivity through fMRI data : Dynamic GSCA and dynamic GCANO

講演者:Yoshio Takane (McGill University/University of Victoria)

概要:

The 21st century is said to be the century of brain sciences. If the goal of psychology lies in the elucidation of behavioral mechanisms, analysis of the relationships between brain and behavior should be one of the most important themes in psychological research, and the development of methods for analysis of brain signals should be considered a cornerstone for future research. In this talk, I discuss two models (dynamic GSCA and dynamic GCANO) designed to analyze brain connectivity based on fMRI data. These models have been developed at the Quantitative Psychology Labs in Psychology Department of McGill University under my supervision. Both of them may be considered as special cases of structural equation models (SEM), which are currently very popular in social science research.

第43回大会公開シンポジウム

第43回大会では以下のとおり公開シンポジウムを実施します。

日時:2015年9月3日(木)14:50~16:50

会場:首都大学東京南大沢キャンパス1号館2階230教室

タイトル:東日本大震災の復興過程の問題と政策決定過程

講演者:山下 祐介(首都大学東京)

概要:

東日本大震災から五年目に入っている。しかしながらその復興過程については事業を進めるほど、被災者・被害者の再建が遠ざかるという矛盾をはらんでいる。そこには国や自治体による地域政策決定における重大な欠陥が見てとれる。復興政策における第三の道の導出可能性と、地方分権の意義を具体的な事例の中から探る。

参加費:無料(大会参加者だけでなく、どなたでも聴講可能です)

第 43 回大会特別講演

第 43 回大会では以下のとおり特別講演を実施します。

日時: 2015 年 9 月 4 日(金)9:30~11:30

会場: 首都大学東京南大沢キャンパス 1 号館 1 階 120 教室

タイトル: データサイエンスの今日的課題

オーガナイザー・討論者: 木下富雄(京都大学名誉教授)

オーガナイザー・司会者: 丸山久美子(聖学院大学名誉教授)

講演:

調査研究から見た「データの科学」の課題 吉野 諒三(統計数理研究所)

ビジネスに活かすデータサイエンス 丸山 宏(統計数理研究所)

‘Big data’ is a big problem. : 別名「データ独裁制」 松原 望(聖学院大学大学院/東京大学名誉教授)

マーケティングにおける社会心理学アプローチの系譜 飽戸弘(東京大学名誉教授)

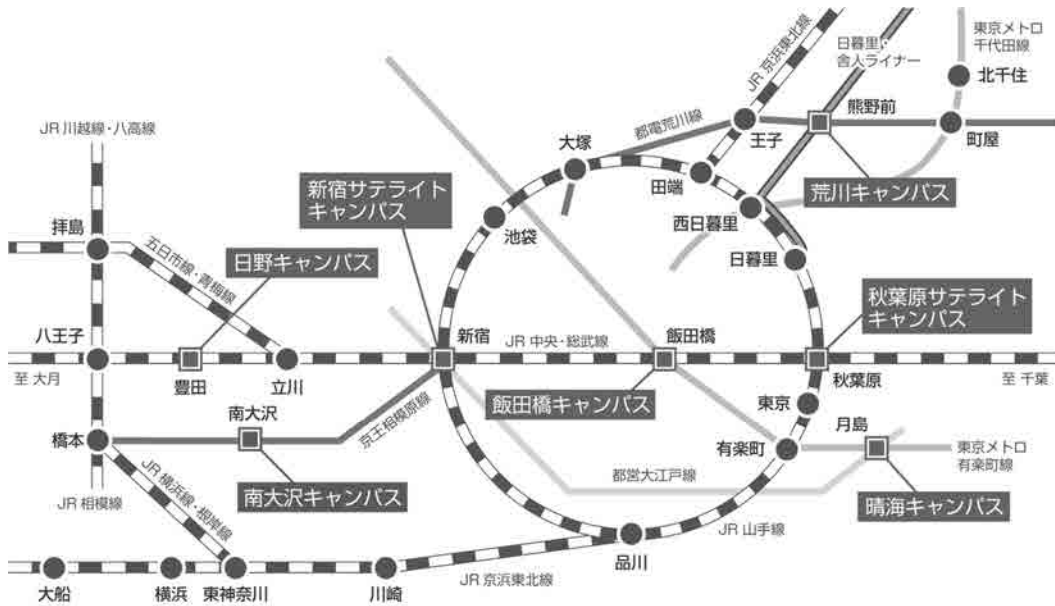
概要:

21 世紀はコンピュータの劇的な発展とともにこれまでのようにデータを採取し分析をしていたころと異なりかなり複雑な状況を呈している。データとは何かを熟慮し真剣にデータ解析法を考えていた時代はいかにも終焉を迎えているかのように見える。インターネットから流れてくる膨大なデータを多くの人たちはビッグ・データと呼ぶ。ビッグ・データとは本来、台風や津波、地震などの巨大なデータの総称であったのだが、この問題とインターネットから流れてくる膨大なデータを同じセンスで分析研究しようとする同床異夢の世界すら垣間見える。この事態を重く考えた研究者は巷にあふれる似非統計学者の言動に惑わされることなく、事態を整理整頓して、これからの時代を歩んでゆこうという意欲を以ってこの課題を行動計量学会全体の問題として取り上げたいと思う。

この問題に関して発題する 4 人の発題者はそれぞれの立場から意欲的に問題を煮詰め真摯にこれから始まるデータサイエンスの時代といかに向き合うかを論じる。

参加費: 無料(大会参加者だけでなく、どなたでも聴講可能です)

首都大学東京南大沢キャンパスアクセスマップ



交通案内



主要駅から南大沢駅までの所要時間(時間は最短の場合です。)

○首都大学東京南大沢キャンパスまでのアクセス

最寄駅は京王相模原線「南大沢」駅です。

・京王新宿駅－南大沢駅(約 30 分)

・京王渋谷駅－南大沢駅(約 40 分)

京王線路線図：<http://www.keio.co.jp/train/map/index.html>

・新横浜駅－南大沢駅(約 40 分)

JR 横浜線で橋本駅まで行き、京王相模原線に乗換、南大沢駅で下車。

・羽田空港－新宿駅(約 45 分)

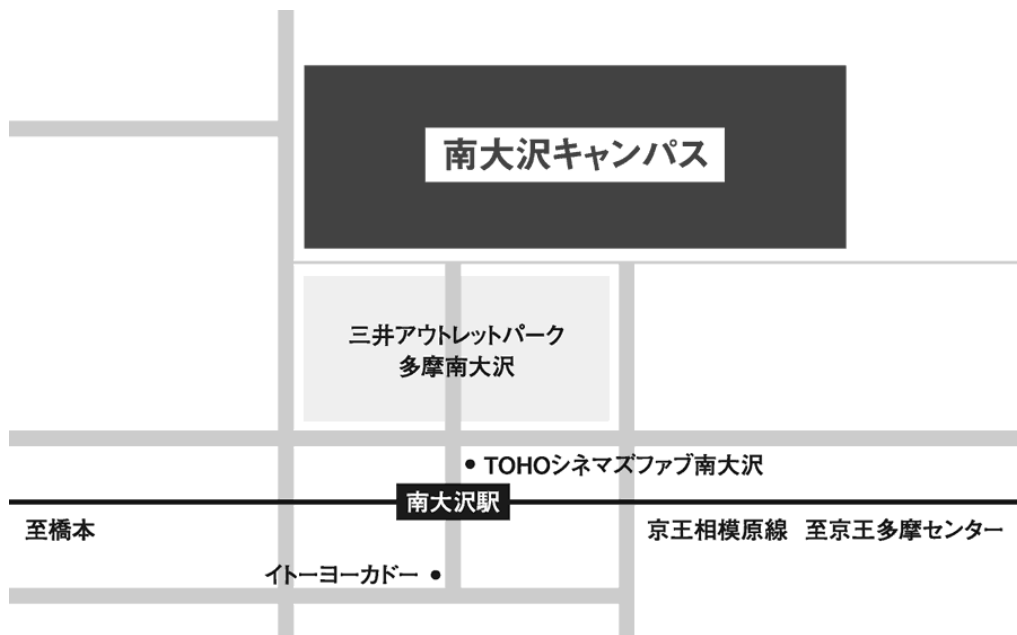
京浜急行空港線の羽田空港駅から京急蒲田駅まで行き、京浜急行本線に乗換、品川駅に行く(羽田空港駅から京浜急行本線直通もあります)。品川駅で JR 山手線に乗換、新宿駅まで行く。

京浜急行路線図：<http://www.keikyu.co.jp/train-info/kakueki/index.html>

・羽田空港－南大沢駅(高速バス)(95 分～140 分、大人片道 1,650 円)

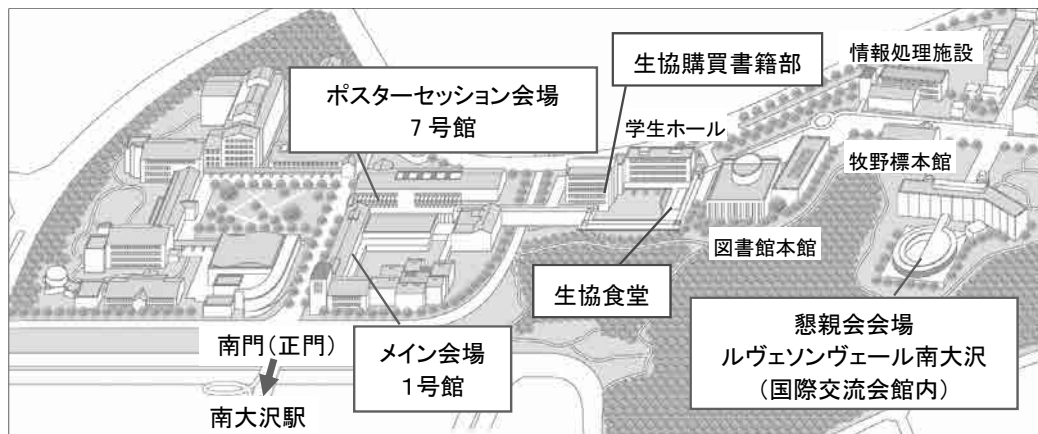
羽田空港から南大沢駅行の高速バスが 1 日に 21 便、南大沢駅行から羽田空港行きの高速バスが 1 日に 14 便運行しています。南大沢駅からのご利用は予約制です。前日までにご予約ください。当日空席がある場合はご予約なしでもご乗車いただけます。(先着順、満席の場合はご乗車になれません。)(2015 年 6 月 25 日現在)。

Airport Limousine：http://www.limousinebus.co.jp/platform_searches/index/4/97



首都大学東京南大沢キャンパスは南大沢駅の改札口から徒歩 5 分です。
改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。

首都大学東京南大沢キャンパス(キャンパスマップ)



○大会受付・会場

南大沢駅からの道をまっすぐ進み、正門(南門)の右手の建物が1号館でメイン会場になります。正面の入り口より中に進み、1階の受付までお越し下さい。1号館で、一般セッション、特別セッション、ラウンドテーブル・ディスカッション、チュートリアルセミナー、特別講演、公開シンポジウム、総会を行います。ポスターセッションの会場は、アーケードを挟んで1号館の向かい側にある建物、7号館の1階101スタジオになります。

○懇親会会場

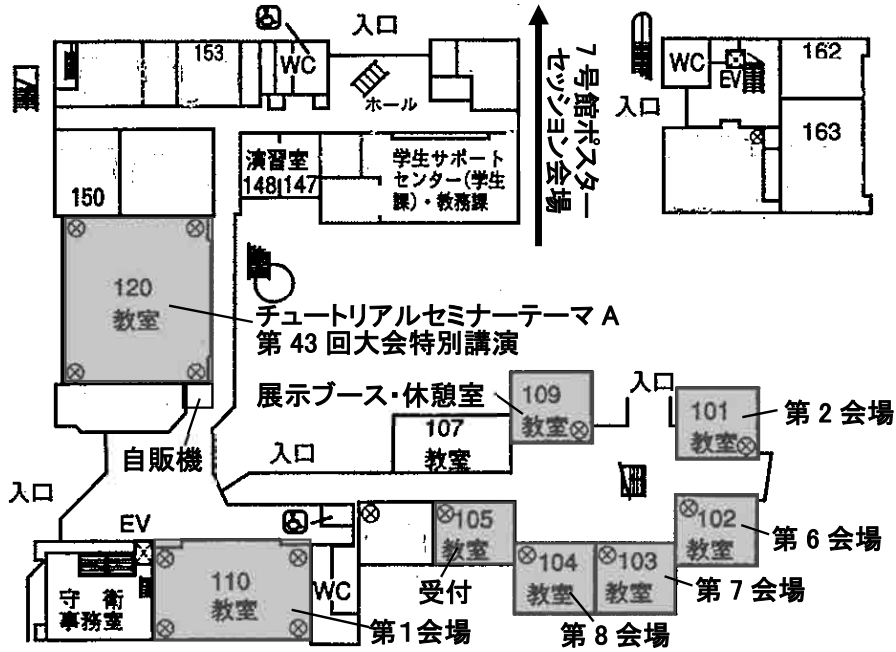
懇親会を行う国際交流会館内にあるルヴェンソヴェール南大沢へは1号館と7号館の間のアーケードを生協食堂のほうに道なりにお進みください。7号館と1号館の先からやや上り坂のスロープになり、アーケードは小さくなりますが、アーケードは国際交流会館のそばまで続いています。アーケードに沿ってお進みいただくと、学生ホール(左手)、図書館本館(右手)、情報処理施設(左手)、牧野標本館(右手)があり、右手の奥に国際交流会館があります。

○生協食堂・生協購買書籍部

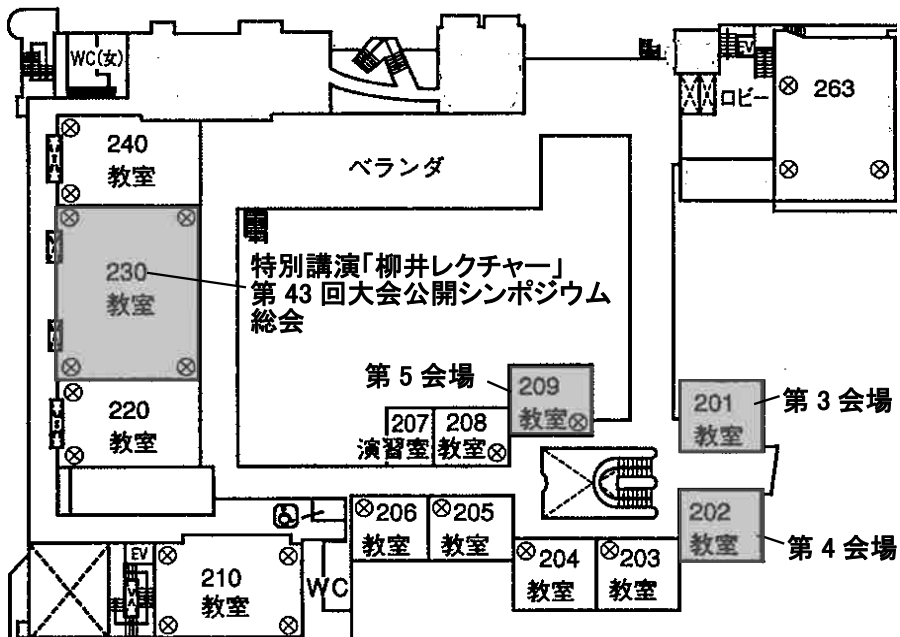
生協食堂・生協購買書籍部へは、1号館と7号館の間のアーケードを道なりに進み、1号館と7号館の間のアーケードが終了し、アーケードが小さくなったところで、道に沿って左にお進みいただき(アーケードのあるスロープは登らない)、そのまま道に沿って進んでいただくと生協購買書籍部と生協食堂があります。また、アーケードに沿ってスロープを登られた場合には、スロープを登り切ったところに階段がございますので、その階段を降りていただいても、生協食堂と生協購買書籍部に行くことは可能です。

会場見取り図(メイン会場)

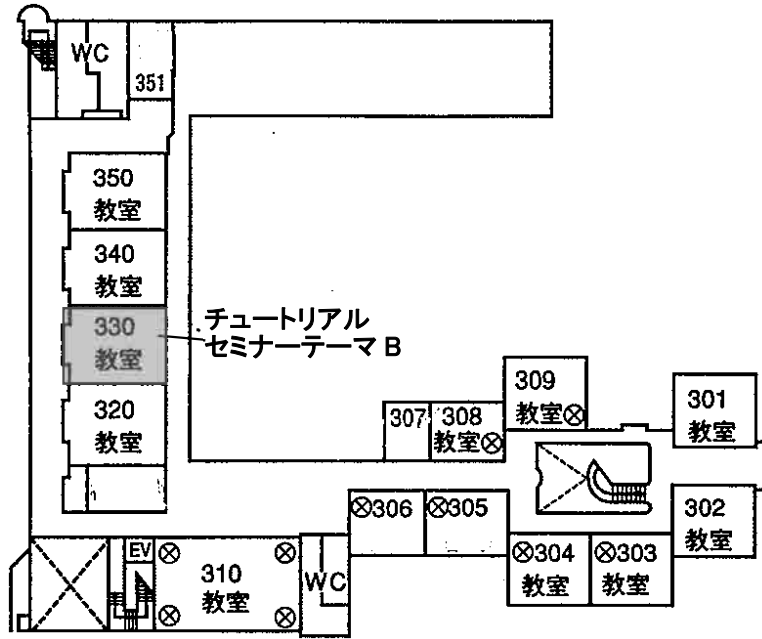
1号館 1階



1号館 2階

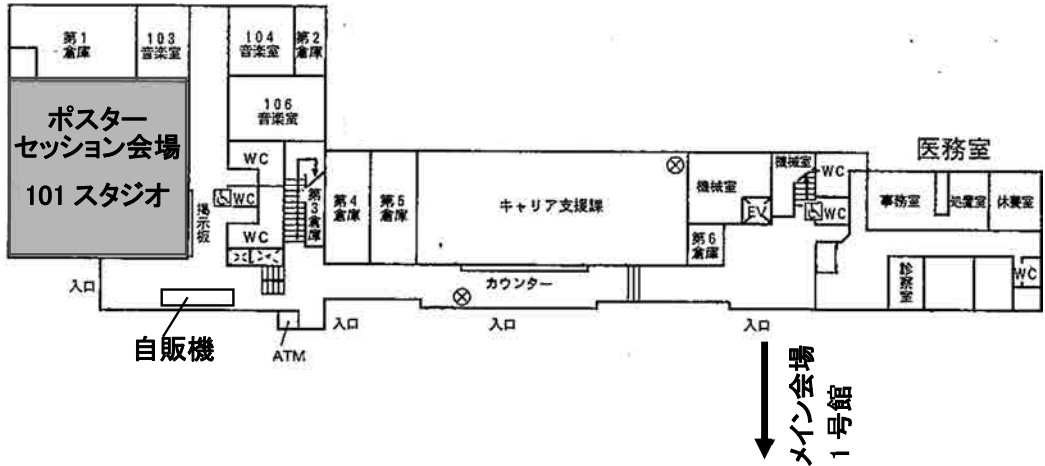


1号館 3階



会場見取り図(ポスターセッション会場)

7号館 1階(ポスターセッション会場)



プログラム

9月1日(火)	
チュートリアルセミナー	
13:00～ 17:30	<div style="text-align: center;">テーマA</div> <p>タイトル: ロボット介護機器評価・改善を実現する「人」の能力最大化支援 ー現場状況の把握・行動の意味分析・行動変容を目指してー 講師: 西村 拓一(産業技術総合研究所)</p> <p style="text-align: center;">会場: 1号館1階120教室</p>
	<div style="text-align: center;">テーマB</div> <p>タイトル: 著者が解説する「RI」による心理学研究法入門</p> <p>企画・司会: 山田 剛史(岡山大学) 講師: 宇佐美 慧(筑波大学)、尾崎 幸謙(筑波大学)、 鈴木 雅之(昭和女子大学)、高橋雄介(京都大学) 安永 和央(東京大学・日本学術振興会)</p> <p style="text-align: center;">会場: 1号館3階330教室</p>

9月2日(水)									
	第1会場 110教室	第2会場 101教室	第3会場 201教室	第4会場 202教室	第5会場 209教室		第6会場 102教室	第7会場 103教室	第8会場 104教室
10:00～ 12:00	特別セッション マーケティングデータの計量化 1	特別セッション 意思決定の理論と行動計量	特別セッション 意識の国際比較調査I	一般セッション 数学・統計(1)	特別セッション 企業が求めるデータサイエンス教育の展開	10:00～ 12:00	/	/	/
昼食									
13:00～ 15:00	特別セッション マーケティングデータの計量化 2	/	特別セッション 意識の国際比較調査II	一般セッション 数学・統計(2)	/	13:00～ 14:00	ラウンドテーブル 文系学生に対するRを用いた心理統計教育	/	ラウンドテーブル 「よい意思決定」について考える
						14:10～ 15:10	データサイエンティストが直面する課題		タンデム分析の問題とその対応
15:20～ 17:20	/	特別セッション 調査精度向上のための実践的方法 ーミックス・モードおよび寄付型インセンティブの試みー	/	/	特別セッション データサイエンス時代の学習の科学	15:20～ 16:20	ラウンドテーブル 徹底討論・統計的因果推論データだけから因果を言えるのか? 3つのアプローチから	ラウンドテーブル ネット調査はどこまで「使える」ようになったのか? ～インターネット調査の現在と未来～	ラウンドテーブル 生活者の価値観データをマーケティングに生かすための方法
						16:30～ 17:20			/

9月3日(木)									
	第1会場 110教室	第2会場 101教室	第3会場 201教室	第4会場 202教室	第5会場 209教室		第6会場 102教室	第7会場 103教室	第8会場 104教室
9:30～ 10:50	一般セッション	一般セッション					一般セッション	一般セッション	一般セッション
	マーケティング	社会・政治					多変量解析	データマイニング	心理・教育
11:00～ 12:40	ポスターセッション 会場：7号館1階101スタジオ								
昼食 特別講演「柳井レクチャー」 Analysis of brain connectivity through fMRI data: Dynamic GSCA and dynamic GCANO 高根 芳雄 (McGill University/University of Victoria) 会場：1号館2階230教室									
13:40～ 14:40	第43回大会公開シンポジウム 東日本大震災の復興過程の問題と政策決定過程 山下 祐介 (首都大学東京大学院) 会場：1号館2階230教室								
14:50～ 16:50	総会 会場：1号館2階230教室								
17:00～ 18:00	懇親会 会場：ルヴェンヴェール南大沢 (首都大学東京 国際交流会館内)								
18:20～ 20:20									

9月4日(金)									
9:30～ 11:30	第43回大会特別講演 データサイエンスの今日的課題 オーガナイザー・討論者：木下富雄 (京都大学名誉教授) オーガナイザー・司会者：丸山久美子 (聖学院大学名誉教授) 講演：調査研究から見た「データの科学」の課題 吉野 諒三 (統計数理研究所) ビジネスに活かすデータサイエンス 丸山 宏 (統計数理研究所) 'Big data' is a big problem. : 別名「データ独裁制」 松原 望 (聖学院大学大学院/東京大学名誉教授) マーケティングにおける社会心理学アプローチの系譜 飽戸 弘 (東京大学名誉教授) 会場：1号館1階120教室								
	昼食								
	第1会場 110教室	第2会場 101教室	第3会場 201教室	第4会場 202教室	第5会場 209教室		第6会場 102教室	第7会場 103教室	第8会場 104教室
12:30～ 14:30	特別セッション	特別セッション					特別セッション	一般セッション	
	福島第1原発事故後の消費者食品購買行動の変容	社会関係資本の実証研究 その醸成要因と効果					行動計量における計算の工夫と応用	調査・データ収集	
14:40～ 16:40	特別セッション	特別セッション					特別セッション	特別セッション	
	マーケティングの新機軸—理論と応用の接点—	社会関係資本の計測					非対称データの分析	日本人の国民性の統計的研究—第13次全国調査と周辺の調査から—	

9月2日(水) 10:00-12:00

第1会場 110教室：特別セッション（120分）
マーケティングデータの計量化1

オーガナイザー：中山厚穂（首都大学東京大学院）

司会者：中山厚穂（首都大学東京大学院）

討論者：朝野熙彦（中央大学大学院）

SA01-1-1 ビッグデータからの未来予測モデル構築

中古車価格予測分析の事例

巢山 剛（株式会社ALBERT）

SA01-1-2 実務におけるベイズ推定法の利用と考察

土田尚弘（(株)日本リサーチセンターナレッジライブラリー）

SA01-1-3 間接効果を考慮したプロモーション効果モデル

齊藤俊則（文京学院大学非常勤講師／(株)マクロミル）

SA01-1-4 形態素解析によるマーケットセグメンテーションの試み

—ファッション・ブランドに関する分析事例より—

奥瀬喜之（専修大学商学部）・黄 笠淇（専修大学大学院商学研究科）

第2会場 101教室：特別セッション（120分）
意思決定の理論と行動計量

オーガナイザー・司会者：竹村和久（早稲田大学文学学術院）

討論者：松原 望（聖学院大学大学院政治政策学研究科）

SBO1-1-1 計量の理論的負荷性

期待効用理論を題材にして

小林憲正（東京工業大学社会理工学研究科価値システム専攻）

SBO1-1-2 「注意」で決まる「意思決定」

～その実践的意義～

藤井 聡（京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻）

SBO1-1-3 モノの立場に立った物語的体験と選好形成

羽鳥剛史（愛媛大学大学院理工学研究科）・尾形愛実（愛媛大学工学部）

SBO1-1-4 状況依存的焦点モデルのChoquet積分表示と行動計量

竹村和久（早稲田大学文学学術院）・藤井 聡（京都大学大学院工学研究科）

第3会場 201教室：特別セッション（120分）

意識の国際比較調査I

オーガナイザー・司会者：吉野諒三（統計数理研究所データ科学研究系）

討論者：林 文（東洋英和女学院大学）

SCO1-1-1 アジア・太平洋価値観国際比較——総合報告

吉野諒三（統計数理研究所調査科学研究センター／総合大学院大学・複合科学研究科・統計学専攻）

SCO1-1-2 政治経済システムと国民性

アジア・太平洋価値観国際比較調査データによる分析

芝井清久（統計数理研究所）

SCO1-1-3 調査結果の比較可能性の水準について

—組織に対する信頼の時系列比較と国際比較から—

松本 渉（関西大学総合情報学部）

SCO1-1-4 日本及びベトナム調査の比較検討

—中間的な回答がある質問—

角田弘子（日本ウェルネススポーツ大学／統計数理研究所・調査科学研究セン

ター）・林 文（統計数理研究所・調査科学研究センター）・吉野諒三（統計数理研

究所・調査科学研究センター）

第4会場 202教室：一般セッション（120分）

数学・統計（1）

座長：江島伸興（大分大学）

CDO1-1 Theory of expectation of Bayesian evidence on Hilbert space in model selection of density estimator

Clarify the relation between data space and Hilbert space

Kiyotake KISHI

CDO1-2 不完全データにおける情報量規準

森川耕輔（大阪大学大学院基礎工学研究科）・伊森晋平（大阪大学大学院基礎工学

研究科）・狩野 裕（大阪大学大学院基礎工学研究科）

CDO1-3 非単調欠測データに対する正規分布モデルの最尤推定量について

高井啓二（関西大学商学部）

CDO1-4 時系列分析を用いたバイタルサイン変動予測

今野徳人（筑波大学大学院ビジネス科学研究科）・尾崎幸謙（筑波大学大学院ビジネ

ス科学研究科）

CDO1-5 Some Notes on the Mathematical Relationship Between Two Longitudinal Models for Assessing Causality

Latent Change Score Model and Autoregressive Cross-Lagged Factor Approaches

Satoshi Usami (University of Tsukuba) · Timothy Hayes (University of Southern California) · John McArdle (University of Southern California)

CDO1-6 2つの対数正規母集団における平均の比の推定

大山哲司 (大分大学医学部) · 江島伸興 (大分大学医学部)

第5会場 209教室：特別セッション (120分)

企業が求めるデータサイエンス教育の展開

オーガナイザー・司会者：竹内光悦 (実践女子大学人間社会学部)

SEO1-1-1 企業がほしがる「データから情報を引き出す力」

～日々変わる企業のわがまま～

小木しのぶ (株式会社NTTデータ数理システム)

SEO1-1-2 産業界のニーズと乖離する学校教育

前川恒久 (QCサークル関東支部京浜地区顧問/日本品質管理学会TQE特別委員会委員)

SEO1-1-3 データサイエンスを専門的に学ぶ大学教育の展望

滋賀大学の目指すもの

竹村彰通 (東京大学/滋賀大学) · 佐和隆光 (滋賀大学) · 吉川英治 (滋賀大学)

9月2日(水) 13:00-15:00

第1会場 110教室：特別セッション (120分)

マーケティングデータの計量化2

オーガナイザー：中山厚穂 (首都大学東京大学院)

司会者：中山厚穂 (首都大学東京大学院)

討論者：朝野熙彦 (中央大学大学院)

SAO2-1-1 ビッグデータの要約としてのMDS

SMACOF, ALSCAL, 対応分析 (ポアソン分布), 対応分析 (正規分布), 4つの手法で同じデータを見る

出口慎二 (DATAEXPLORING)

SAO2-1-2 消費者調査における真実申告誘発メカニズムの活用

小野 滋 (株式会社インサイト・ファクトリー)

SAO2-1-3 50歳前後の女性マーケットを深く理解する縦断的研究

バブル体験世代の情報収集行動

高田夕子（株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント）・島崎耕一（株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント）

SAO2-1-4 マラソン走行データ解析で安全な大会運営を目指す

田久浩志（国土館大学体育学部）・喜熨斗智也（国土館大学体育学部）・田中秀治（国土館大学体育学部）

第3会場 201教室：特別セッション（120分）

意識の国際比較調査II

オーガナイザー：吉野諒三（統計数理研究所データ科学研究系）

討論者：林 文（東洋英和女学院大学）

SCO2-1-1 Well-beingとsocial capitalの国際比較II

山岡和枝（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）・吉野諒三（統計数理研究所調査科学研究センター）

SCO2-1-2 アジア太平洋11か国における生きがい感とソーシャル・サポート

—「アジア太平洋価値観国際比較調査（APVS）」から—

朴 堯星（統計数理研究所・調査科学研究センター）・吉野諒三（統計数理研究所・調査科学研究センター）

SCO2-1-3 経済的發展と社会調査への回答：インド、ベトナムにおける回答パターンの探求

二階堂晃祐（統計数理研究所調査科学研究センター）

SCO2-1-4 言語の問題はどのような質問項目への回答に影響を与えるか

多言語社会での調査に関する考察

藤田泰昌（長崎大学）

第4会場 202教室：一般セッション（120分）

数学・統計（2）

座長：植野真臣（電気通信大学大学院）

CDO2-1 連続・離散変換とクラスター分析

馬場康維（統計数理研究所）・馬場恵美子（日本大学理工学部）

CDO2-2 m-DSAMの頂点電位の潜時決定法に関する一考察

船田眞里子（白鷗大学経営学部）・船田 忠（立教大学理学部）

CDO2-3 Rating Scale Modelの条件付き最尤推定値の順序保存について

森 一将（東京大学大学院総合文化研究科）

CDO2-4 項目反応理論における能力パラメータの推定量の漸近期待2乗誤差の縮小

小笠原春彦（小樽商科大学商学部）

CDO2-5 項目反応理論による日本語版 Lipkus ニューメラシー尺度の検討

— 回答者能力による識別性の検討 —

広田すみれ（東京都市大学メディア情報学部）

CDO2-6 LiNGAMによるルーブリックの構成主義的学習に与える影響のモデル化

山本美紀（電気通信大学大学院情報システム学研究科）・植野真臣（電気通信大学
大学院情報システム学研究科）

9月2日（水） 13:00–14:00

第6会場 102教室：ラウンドテーブル・ディスカッション（60分）
文系学生に対するRを用いた心理統計教育

オーガナイザー・司会者：山田剛史（岡山大学大学院 教育学研究科）

RFO2-1 文系学生のためのRを用いた心理統計教育

Rを活用した教材開発と授業実践

山田剛史（岡山大学）・村井潤一郎（文京学院大学）・杉澤武俊（新潟大学）・寺尾
敦（青山学院大学）

第8会場 104教室：ラウンドテーブル・ディスカッション（60分）
「よい意思決定」について考える

オーガナイザー・司会者：竹村和久（早稲田大学文学学術院）

RHO2-1 「よい意思決定」について考える

— 行動意思決定論からの示唆 —

竹村和久（早稲田大学文学学術院）

9月2日（水） 14:10–15:10

第6会場 102教室：ラウンドテーブル・ディスカッション（60分）
データサイエンティストが直面する課題

オーガナイザー・司会者：尾碇幸謙（筑波大学大学院 ビジネス科学研究科）

オーガナイザー・討論者：川端一光（明治学院大学心理学部心理学科）

RFO2-2 データサイエンティストが直面する課題

岩間徳兼（国際交流基金）・福中公輔（産業能率大学総合研究所）・野尻正行（株式
会社 Qubital データサイエンス）

第8会場 104教室：ラウンドテーブル・ディスカッション（60分）

タンデム分析の問題とその対応－主成分分析，因子分析，多次元尺度構成法等で求めた布置内のクラスター分析（タンデムクラスター化）の問題を考える－

オーガナイザー・司会者：岡太彬訓（多摩大学大学院）

RHO3-2-1 タンデム分析の背景と問題

Context and Complications of Tandem Analysis

岡太彬訓（多摩大学）

RHO3-2-2 次元縮小とクラスタリングの同時分析法とその問題点

山本倫生（京都大学大学院医学研究科）

RHO3-2-3 マーケティングにおけるタンデム分析

Tandem Analysis in Marketing

鶴見裕之（横浜国立大学）

9月2日（水） 15:20-17:20

第2会場 101教室：特別セッション（120分）

調査精度向上のための実践的方法－ミックス・モードおよび寄付型インセンティブの試み－

オーガナイザー・司会者：松本正生（埼玉大学社会調査研究センター）

討論者：松田映二（埼玉大学）

討論者：円山琢也（熊本大学）

SBO3-1-1 パーソントリップ調査における回収率向上の取り組み

中野 敦（一般財団法人計量計画研究所）・森尾 淳（一般財団法人計量計画研究所）
松本正生（埼玉大学社会調査研究センター）

SBO3-1-2 パーソントリップ調査におけるミックスモード調査の可能性

森尾 淳（一般財団法人計量計画研究所）・中野 敦（一般財団法人計量計画研究所）
松本正生（埼玉大学社会調査研究センター）

SBO3-1-3 郵送調査の運用改善に向けた試論

－毎日新聞世論調査の事例から－

大隈慎吾（毎日新聞社世論調査室）・今村 茜（毎日新聞社世論調査室）

第5会場 209教室：特別セッション（120分）

データサイエンス時代の学習の科学

オーガナイザー・司会者：馬場康維（情報・システム研究機構 統計数理研究所 統計思考院）

オーガナイザー：孫 媛（国立情報学研究所）

討論者：水田正弘（北海道大学）

- SEO3-1-1 学習解析 (Learning Analytics) の動向
関谷貴之 (東京大学情報基盤センター)・芳賀 瑛 (法政大学情報メディア教育研究センター)・梶田将司 (京都大学情報環境機構/京都大学学術情報メディアセンター)
- SEO3-1-2 高等教育における学修環境や教育プログラムの効果を科学する
登藤直弥 (国立情報学研究所)・孫 媛 (国立情報学研究所)・井上俊哉 (東京家政大学人文学部)
- SEO3-1-3 認知診断モデルを用いた個人の学習状態の分析の利点とその問題点
正確な診断を行うため必要なことはなにか
山口一太 (東京大学大学院教育学研究科)

第6会場 102教室：ラウンドテーブル・ディスカッション (120分)

徹底討論・統計的因果推論 データだけから因果を言えるのか？ 3つのアプローチから

オーガナイザー・司会者・討論者：星野崇宏 (慶應義塾大学経済学部・大学院経済学研究科)

討論者：黒木 学 (情報・システム研究機構統計数理研究所)

討論者：清水昌平 (大阪大学産業科学研究所)

RFO3-1 徹底討論・統計的因果推論

データだけから因果を言えるのか？ 3つのアプローチから

星野崇宏 (慶應義塾大学)・黒木 学 (情報システム研究機構統計数理研究所)・清水昌平 (大阪大学)

第7会場 103教室：ラウンドテーブル・ディスカッション (120分)

ネット調査はどこまで「使える」ようになったのか？～インターネット調査の現在と未来～

オーガナイザー：芳賀麻誉美 (徳山大学経済学部)

司会者：鈴木督久 (日経リサーチ)

RG03-1-1 日本のネット調査が抱える問題点

あえて今鳴らす警鐘

出口慎二 (DATAEXPLORING)

RG03-1-2 市場調査と世論調査は共存できるのか

～市場が求める市場調査の行方～

芳賀麻誉美 (徳山大学経済学部)

RG03-1-3 ネット調査と「リサーチという経験のデザイン」

小野 滋 (株式会社インサイト・ファクトリー)

9月2日(水) 15:20-16:20

第8会場 104教室：ラウンドテーブル・ディスカッション（60分）
生活者の価値観データをマーケティングに活かすための方法

オーガナイザー：中山厚穂（首都大学東京大学院）

司会者：朝野熙彦（中央大学大学院）

RHO3-1 価値観データをマーケティングに活かすための研究

価値観連関表（「価値環」モデル）構築により未来を創る

川島隆志（(株)JMRサイエンス）・磯崎亜樹（(株)東芝）・池本浩幸（(株)東芝）

9月3日(木) 9:30-10:50

第1会場 110教室：一般セッション（100分）
マーケティング

座長：飽戸 弘（東京大学名誉教授）

CAO4-1 スマホ時代の動画利用に関するライフスタイル・アプローチ（1）

— 動画視聴後の行動類型の構造と視聴動画ジャンル —

飽戸 弘（東京大学名誉教授）・栗原一浩（株式会社NTTドコモモバイル社会研究所）・尾仲秀敏（株式会社NTTドコモモバイル社会研究所）・松本健太郎（株式会社NTTドコモモバイル社会研究所）

CAO4-2 スマホ時代の動画利用に関するライフスタイル・アプローチ（2）

— 動画視聴の「関与」によるセグメンテーションとその特徴 —

飽戸 弘（東京大学名誉教授）・栗原一浩（株式会社NTTドコモモバイル社会研究所）・尾仲秀敏（株式会社NTTドコモモバイル社会研究所）・松本健太郎（株式会社NTTドコモモバイル社会研究所）

CAO4-3 ブランドスイッチにメディア接触が与える影響の研究

シングルソースパネルによる消費者異質性を考慮したアプローチ

張 亦馳（株式会社インテージ）・残間大地（株式会社インテージ）・篠原正裕（株式会社インテージ）

CAO4-4 地域差から見る店舗分析

森角亮太（東海大学大学院情報通信学研究科）・朝日弓未（東海大学情報通信学部）

CAO4-5 企業予想の特性分析

— 外生的ショック下におけるバイアスと異質性 —

栗原由紀子（弘前大学人文学部）

第2会場 101教室：一般セッション（100分）

社会・政治

座長：河村和徳（東北大学）

- CBO4-1 国際比較の視座からするWell-beingの諸次元の探索
Parental Well-being 日独比較調査のデータ分析
真鍋一史（青山学院大学地球社会共生学部）
- CBO4-2 英国の文化活動データから見る幸福度と不平等の分布
余暇活動の定量化からどのような示唆を導きうるのか？
田中陽平（東北大学経済学研究科）
- CBO4-3 継続居住希望とソーシャル・キャピタル
地方消滅時代における地域力の役割
高橋義明（筑波大学システム情報系）・寺田力優（帝国データバンク）
- CBO4-4 東日本大震災における不安の「政治」による非解消
2011年仙台調査および2012年仙台調査のパネル・データ分析
福井英次郎（慶應義塾大学ジャン・モネEU研究センター）・岡田陽介（立教大学社会学部）
- CBO4-5 投票所設置に関する計量分析
茨木 瞬（東北大学情報科学研究科）・河村和徳（東北大学情報科学研究科）

第6会場 102教室：一般セッション（100分）

多変量解析

座長：中村永友（札幌学院大学）

- CFO4-1 多重対応分析における馬蹄現象はなぜ発生するのか
3値データについての検討
村上 隆（中京大学現代社会学部）
- CFO4-2 宇野浩二の文体変化に関する計量的分析
劉 雪琴（同志社大学文化情報学研究科）・金 明哲（同志社大学文化情報学部）
- CFO4-3 データから見る川端康成のゴースト・ライター問題
「乙女の港」は誰の作品なのか
孫 昊（同志社大学文化情報学研究科）・李 鍾賛（同志社大学文化情報学部外国人研究員）・金 明哲（同志社大学文化情報学部）
- CFO4-4 『小児メタボモデル』を活用した生活習慣病予防指導の試み
柴崎三郎（讃陽堂松原病院・小児科）
- CFO4-5 医学部入学者の性格特性 ～ Big Five 尺度を用いて～
安田 晃（島根大学医学部医療情報学講座）・周藤由香里（島根県立松江高等看護学院）・津本周作（島根大学医学部医療情報学講座）

第7会場 103教室：一般セッション（100分）
データマイニング

座長：森 裕一（岡山理科大学）

CGO4-1 コミュニティの行動計量技術

ICカードとタブレットによるビッグデータ収集と確率的潜在構造分析

本村陽一（産業技術総合研究所／東京工業大学）・櫻井瑛一（産業技術総合研究所）・廣川典昭（産業技術総合研究所／東京工業大学）・村山敬祐（産業技術総合研究所／東京工業大学）・川島健佑（産業技術総合研究所／東京工業大学）・安松 健（シナジーマーケティング）

CGO4-2 総合的類型化解析基盤の構築とその応用

篠原美樹（静岡産業技術専門学校）・水野信也（静岡理工科大学総合情報学部）・藤澤由和（静岡県立大学経営情報学部）・八巻直一（静岡大学工学部）

CGO4-3 電子カルテデータと大気汚染物質広域監視システム「そらまめ君」を利用した諸疾患・大気汚染関係のデータスクリーニング —上下四分位法の活用—

星野隆之（国立国際医療研究センター）・松原 望（聖学院大学）・植田栄子（青森公立大学）・平山雄一（(株)システム情報パートナー）・星野綾美（五百山クリニック）

CGO4-4 各国株価データに利用した企業間の同類度のネットワーク分析

上野雄史（静岡県立大学）・斉藤和巳（静岡県立大学）・楊 小龍（静岡県立大学）

CGO4-5 統合的分類アルゴリズムを用いた韓国語文章の書き手の識別

李 鍾賛（同志社大学文化情報学部外国人研究員）・金 明哲（同志社大学文化情報学部）

第8会場 104教室：一般セッション（100分）
心理・教育

座長：藤井誠二（新潟県立大学）

CAO7-1 従属関係が存在するテストレットモデルの項目選択法の実験的検討

大森拓哉（多摩大学経営情報学部）

CAO7-2 心理学調査における分冊型と短縮型の統計学的比較

尾崎幸謙（筑波大学大学院ビジネス科学研究科）

CAO7-3 「テスト・スタンダード」からみた教員・公務員・警察官採用試験適性検査の問題
心理テストMMPI利用をめぐって

岩本健良（金沢大学人文学類）

CAO7-4 The Influence of Demographic Factors to People's Environmental Consciousness in Rural China

Yanyan CHEN（Graduate School of Culture and Information Science, Doshisha University）・Yuejun ZHENG（Faculty of Culture and Information Science, Doshisha University）

CA07-5 WEB サイト閲覧を変化させる音楽

靄谷 椋生（同志社大学院文化情報学研究科）・村上 征勝（同志社大学院文化情報学研究科）

9月3日(木) 11:00-12:40

7号館1階101スタジオ：一般セッション（100分）

ポスターセッション 在席責任時間：11:00～12:00

▶ 調査・データ収集

CAP1-1 郵送調査法における回収率向上策に関する実験調査

－多摩地域住民調査の事例を中心として－

朴 堯星（統計数理研究所）・土屋隆裕（統計数理研究所）

CAP1-2 自記式調査票デザインに関するいくつかの実験調査

郵送調査と視線追跡調査による実験

土屋隆裕（統計数理研究所データ科学研究系）・朴 堯星（統計数理研究所データ科学研究系）

CAP1-3 回答指示の非遵守と反応バイアス、同一回答傾向の関連

増田真也（慶應義塾大学看護医療学部）・坂上貴之（慶應義塾大学文学部）・北岡和代（金沢大学医薬保健研究域保健学系）・佐々木恵（北陸先端科学技術大学院大学）

CAP1-4 NFCを活用した簡易なアンケート収集システム

櫻井瑛一（国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター）・本村陽一（国立研究開発法人産業技術総合研究所人工知能研究センター）

▶ 教育

CAP1-5 イメージ調査における重要度・満足度評価について

項目反応理論にもとづく検討

片山浩子（岡山理科大学大学院総合情報学研究科）・朝原広喬（岡山理科大学総合情報学部社会情報学科）・水谷直樹（岡山理科大学総合情報学部）・森 裕一（岡山理科大学総合情報学部）

CAP1-6 評定者・受験者間の分散に影響を与える評定バイアスを表現する項目反応モデル

分寺杏介（東京大学大学院教育学研究科）

CAP1-7 中学生の食育プログラム構築のための現状分析

－ライフスタイルと愁訴との関連性－

渡邊純子（熊本県立大学地域連携・研究推進センター）・渡辺満利子（昭和女子大学）・山岡和枝（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）・根本明日香（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）・安達美佐（栄養サポートネットワーク合同会社）・丹後俊郎（帝京大学大学院公衆衛生学研究科／医学統計学研究センター）

▶ 医学

- CAP1-8 ライフスタイル改善のための対象者の行動タイプ別アプローチの効果の評価
クラスター無作為化比較試験プロトコル
安達美佐（栄養サポートネットワーク合同会社）・山岡和枝（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）・渡辺満利子（昭和女子大学／EBNダイエット&メタボ食育研究所）・根本明日香（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）・丹後俊郎（医学統計学研究センター）
- CAP1-9 メタボリックシンドロームのためのライフスタイル教育の行動計量
渡辺満利子（昭和女子大学）・山岡和枝（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）・安達美佐（栄養サポートネットワーク合同会社）・根本明日香（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）・丹後俊郎（帝京大学大学院公衆衛生学研究科／医学統計学研究センター）
- CAP1-10 日本における水痘予防接種効果について
土居麻友美（大分大学医学部数学・統計学講座）・江島伸興（大分大学医学部数学・統計学講座）・是松聖悟（地域医療・小児科分野担当）

7号館1階101スタジオ：一般セッション（100分）
ポスターセッション 在席責任時間：11:40～12:40

▶ 社会

- CAP2-1 職業の認知距離空間にみる地位集団の分化
林 拓也（奈良女子大学研究院人文科学系）
- CAP2-2 評定対象・評定者のジェンダーが職業威信スコアに与える影響
脇田 彩（立教大学社会学部）
- CAP2-3 性別役割分業意識とライフコース要因との関連
女性の理想のライフコース，母親のライフコースに着目して
細川千紘（首都大学東京大学院人文科学研究科）
- CAP2-4 家族構造が生み出す教育達成メカニズムの差異についての検討
斉藤裕哉（首都大学東京大学院人文科学研究科）
- CAP2-5 BMIの社会的検討
真間大地（首都大学東京人文科学研究科）
- CAP2-6 知的柔軟性の測定
テキストマイニングと尺度構成
木村邦博（東北大学文学研究科）

▶ マーケティング

- CAP2-7 消費者のライフスタイル・セグメンテーションのための個人毎購買履歴を活用した訴求商品推定方式の評価
藤田真理奈（日立製作所）・相菌敏子（日立製作所）

▶ 多変量解析

CAP2-8 2段共通数量化分析法による分析例

ビッグデータ分析のために

岡本安晴（日本女子大学人間社会学部）

CAP2-9 行列分解型因子分析を用いた変数選択を伴う次元縮約法

橋本 翔（関西学院大学理工学部）

CAP2-10 マネーロンダリング監視者リストを用いた世界の要人間関係のネットワーク分析

新井優太（リクルート住まいカンパニー住まい研究所）・伊藤亮人（新潟大院自然）・水野貴之（国立情報学研究所）家富 洋（新潟大理）

9月3日(木) 13:40-14:40

1号館2階230教室：特別講演「柳井レクチャー」（60分）

Analysis of brain connectivity through fMRI data: Dynamic GSCA and dynamic GCANO

高根芳雄（McGill University/University of Victoria）

9月3日(木) 14:50-16:50

1号館2階230教室：第43回大会公開シンポジウム（120分）

東日本大震災の復興過程の問題と政策決定過程

山下祐介（首都大学東京大学院）

9月3日(木) 17:00-18:00

1号館2階230教室：総会（60分）

9月3日(木) 18:20-20:20

ルヴェソンヴェール南大沢 (首都大学東京国際交流会館内) : 懇親会 (120分)

9月4日(金) 9:30-11:30

1号館1階120教室 : 第43回大会特別講演 (120分)
データサイエンスの今日的課題

オーガナイザー・討論者 : 木下富雄 (京都大学名誉教授)

オーガナイザー・司会者 : 丸山久美子 (聖学院大学名誉教授)

特別講演1 調査研究から見た「データの科学」の課題

吉野諒三 (統計数理研究所・調査科学研究センター／総合大学院大学・複合科学研究科・統計学専攻)

特別講演2 ビジネスに活かすデータサイエンス

価値を生むベストプラクティス

丸山 宏 (情報・システム研究機構統計数理研究所／総合研究大学院大学統計科学専攻)

特別講演3 'Big data' is a big problem. : 別名「データ独裁制」

松原 望 (聖学院大学大学院客員教授／東京大学名誉教授)

特別講演4 マーケティングにおける社会心理学アプローチの系譜

態度研究より、パーソナリティ、イメージ、深層心理、そして価値・ライフスタイルへ
飽戸 弘 (東京大学名誉教授)

9月4日(金) 12:30-14:30

第1会場 110教室 : 特別セッション (120分)
福島第1原発事故後の消費者食品購買行動の変容

オーガナイザー・司会者・討論者 : 竹下広宣 (日本大学生物資源科学部)

討論者 : 栗原伸一 (千葉大学園芸学部)・氏家清和 (筑波大学生命環境系)・山根史博 (広島市立大学国際学部)

SAO5-1-1 被災地産品に対する消費者評価の回復に資する集団規範的購買行動情報の特定
竹下広宣 (日本大学生物資源科学部)

- SAO5-1-2 風評被害対策としての植物工場の可能性
福島県内JA 直売所における消費者調査からの接近
栗原伸一（千葉大学大学院園芸学研究科）・石田貴士（千葉大学大学院園芸学研究科）
- SAO5-1-3 放射性物質汚染に対する消費者評価の推移
2011年3月から2014年8月までの調査結果
氏家清和（筑波大学生命環境系）・立川哲之（筑波大学生命環境学群生物資源学類）
- SAO5-1-4 牛肉の放射能汚染問題における消費者の購買行動と情報源選択
2011年12月時の都市住民アンケートの分析結果
山根史博（広島市立大学国際学部）

第2会場 101教室：特別セッション（120分）
社会関係資本の実証研究 その醸成要因と効果

- オーガナイザー・司会者：稲葉陽二（日本大学法学部）
討論者：佐藤嘉倫（東北大学大学院文学研究科行動科学研究室）
- SBO5-1-1 社会関係資本醸成における教育の効果
露口健司（愛媛大学教育学部）
- SBO5-1-2 郊外社会におけるつながりの再編
石田光規（早稲田大学文学学術院）
- SBO5-1-3 寄付行動に社会関係資本が与える影響
個人が保有する関係と地域の社会関係
石田 祐（国立高等専門学校機構明石工業高等専門学校）
- SBO5-1-4 コミュニティレベルの社会関係資本と生活満足度・主観的健康
稲葉陽二（日本大学法学部）・和田有理（日本大学法学部）・市田行信（日本大学法学部）

第6会場 102教室：特別セッション（120分）
行動計量における計算の工夫と応用

- オーガナイザー・司会者：森 裕一（岡山理科大学総合情報学部）
討論者：橋口博樹（東京理科大学理学部）
- SFO5-1-1 Lassoによるスパース三相主成分分析
池本大樹（大阪大学大学院人間科学研究科行動統計科学研究分野）
- SFO5-1-2 行列モデル因子分析における因子得点の計算
宇野光平（大阪大学大学院人間科学研究科）・足立浩平（大阪大学人間科学部）
- SFO5-1-3 零過剰非負値行列に対するTri-factorizationについて
阿部寛康（同志社大学大学院文化情報学研究科）・宿久 洋（同志社大学文化情報学部）

SFO5-1-4 EMアルゴリズムの加速化と応用

黒田正博（岡山理科大学総合情報学部）

SFO5-1-5 人間社会系の流行における数理モデルの提案

イノベータ理論と時間遅れの方程式を用いて

大田 靖（同志社大学）

9月4日（金） 12:30-14:10

第7会場 103教室：一般セッション（100分）

調査・データ収集

座長：尾崎幸謙（筑波大学大学院）

CGO5-1 意識調査における若年層の回収率の季節変動について

山田 茂（国士舘大学政経学部）

CGO5-2 大規模教育調査における標本抽出と重みづけについて

PISA（OECD生徒の学習到達度調査）の場合

巖岩 晶（国立教育政策研究所）・篠原真子（国立教育政策研究所）

CGO5-3 ネットモニターサンプルとどう向き合うべきか

ODAへの態度に関する調査を例として

三上 了（愛媛大学法文学部）

CGO5-4 インターネット調査における回答傾向の違い

選択肢の尺度・数、及び回答形式に着目して

朝倉真粧美（株式会社ビデオリサーチ）・清水絵里子（株式会社ビデオリサーチ）

久保証哉（株式会社ビデオリサーチ）

CGO5-5 パーソナルデータにおける匿名化手法の研究

k-匿名化への統計的手法の応用

泉 晃（筑波大学大学院ビジネス科学研究科）・尾崎幸謙（筑波大学大学院ビジネス科学研究科）

9月4日（金） 14:40-16:40

第1会場 110教室：特別セッション（120分）

マーケティングの新機軸－理論と応用の接点－

オーガナイザー・司会者：芳賀麻誉美（徳山大学経済学部）

SAO6-1-1 対象者の食物新奇性恐怖と関係流動性で占う新製品・新サービスの選好

芳賀麻誉美（徳山大学経済学部）

- SAO6-1-2 サービスデザインの可能性
複雑なヒューマンサービスシステム構築のために
澤谷由里子（早稲田大学研究戦略センター）
- SAO6-1-3 社会物理学的手法によるソーシャルメディア解析とマーケティングへの応用
ヒット現象の数理モデルとその応用
石井 晃（鳥取大学工学研究科）・北尾明子（鳥取大学工学研究科）・川畑泰子（東京大学情報理工学系研究科）・岩永佐織（海上保安大学校）
- SAO6-1-4 潜在意味解析モデルを用いた言語プロトコルと描画による消費者のリスク判断の検討
玉利祐樹（東京大学医学部附属病院／早稲田大学文学学術院）・井出野尚（早稲田大学文学学術院）・竹村和久（早稲田大学文学学術院）
- SAO6-1-5 寄付行為をめぐる日米文化差の研究
芳賀麻誉美（徳山大学経済学部）・鈴木智子（京都大学大学院経営管理研究部）
- SAO6-1-6 消費者の多属性意思決定過程における多段階的決定方略の検討
井出野尚（慶應義塾大学論理と感性のグローバル研究センター）・原口僚平（早稲田大学大学院文学研究科）・村上 始（早稲田大学大学院文学研究科）・玉利裕樹（東京大学医学部附属病院）・竹村和久（早稲田大学文学学術院）

第2会場 101教室：特別セッション（120分）

社会関係資本の計測

オーガナイザー・司会者：稲葉陽二（日本大学法学部）

オーガナイザー：林 文（統計数理研究所）

討論者：吉野諒三（統計数理研究所データ科学研究系）

SBO6-1-1 2013年社会関係資本全国調査を用いたリッカートスケールの妥当性の検証

稲葉陽二（日本大学法学部）

SBO6-1-2 信頼のレベルと信頼の範囲

日本における地区レベル社会関係資本調査データの分析から

小藪明生（早稲田大学文学学術院）

SBO6-1-3 所得調整済社会関係資本の開発

市田行信（株式会社政策基礎研究所／日本福祉大学客員研究員）

SBO6-1-4 測られているものは何？

データから垣間見える「社会的ネットワーク」の中身

菅野 剛（日本大学文理学部）

第6会場 102教室：特別セッション（120分）

非対称データの分析

オーガナイザー：今泉 忠（多摩大学経営情報学部）

SFO6-1-1 Time series analyses of changes in asymmetric relationships among members over time

Naohito Chino（Faculty of Psychological & Physical Science, Aichi Gakuin University）

SFO6-1-2 2相3元データに対する対数線形モデルを用いたベイズ非対称MDSについて

土田 潤（同志社大学大学院文化情報学研究科）・宿久 洋（同志社大学文化情報学部）

SFO6-1-3 Dominance 点モデルの2相3元非対称(非)類似度への拡張1

Extending Dominance Point Model to Two-Mode Three-Way Asymmetric (Dis)Similarities

岡太彬訓（多摩大学）・今泉 忠（多摩大学）

SFO6-1-4 Dominance 点モデルの2相3元非対称(非)類似度への拡張2

Extending Dominance Point Model to Two-Mode Three-Way Asymmetric (Dis)Similarities 2

今泉 忠（多摩大学経営情報学部）・岡太彬訓（立教大学）

SFO6-1-5 マーケティング領域における非対称データの分析事例

齊藤俊則（文京学院大学非常勤講師／(株)マクロミル）

第7会場 103教室：特別セッション（120分）

日本人の国民性の統計的研究—第13次全国調査と周辺の調査から—

オーガナイザー・司会者：前田忠彦（情報・システム研究機構統計数理研究所）

オーガナイザー：中村 隆（統計数理研究所）

SGO6-1-1 日本人の国民性調査データの交互作用効果モデルによるコウホート分析

— ベイズ型コウホートモデル（XXIV） —

中村 隆（統計数理研究所データ科学研究系／調査科学研究センター）

SGO6-1-2 「日本人の国民性調査」等の回収動向と調査周辺情報に関する基礎分析

前田忠彦（統計数理研究所データ科学研究系）

SGO6-1-3 幸福度の規定要因に関する統計的な検討

伏木忠義（新潟大学教育学部）・前田忠彦（統計数理研究所データ科学研究系）

SGO6-1-4 「努力は報われる」観についての再検討

— 国民性に関する意識動向調査より —

朴 堯星（統計数理研究所）

SGO6-1-5 「信頼」をめぐる社会意識項目間の連関分析

稲垣佑典（統計数理研究所調査科学研究センター）・前田忠彦（統計数理研究所データ科学研究系）・中村 隆（統計数理研究所データ科学研究系）

日本行動計量学会第 43 回大会

主催：日本行動計量学会第 43 回大会実行委員会

於：首都大学東京南大沢キャンパス

開催日：2015 年 9 月 1 日～4 日

○ 実行委員会

大会実行委員会委員長

中尾 啓子(首都大学東京)

実行委員

井上 薫(首都大学東京)

笠松 慶子(首都大学東京)

中山 厚穂(首都大学東京、副委員長)

平井 洋子(首都大学東京)

山際 勇一郎(首都大学東京)

上野 雄史(静岡県立大学)

尾崎 幸謙(筑波大学大学院)

中村 永友(札幌学院大学)

藤井 誠二(新潟県立大学)

森 裕一(岡山理科大学)

松本 渉(関西大学)

○ 協賛(2015 年 7 月 1 日現在)

株式会社 朝倉書店

株式会社 北大路書房

株式会社クロス・マーケティング

一般社団法人 社会調査協会

一般財団法人 統計質保証推進協会

株式会社 NTT データ数理システム

株式会社日経リサーチ

株式会社 ナカニシヤ出版

東京図書株式会社

株式会社マーケティング・サービス

株式会社 日本リサーチセンター

編集：日本行動計量学会第 43 回大会実行委員会

発行：日本行動計量学会